

# 日本海スルメイカ漁場調査 一抄録一

(東奥丸・イカ類漁場調査、青鵬丸・魚群情報速報事業)

田中 裕憲・菊谷 尚久・涌坪 敏明・白取 尚実

## 発 表 誌 名

イカ釣漁場開発調査資料XV(平成2年4月)及び平成元年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測基礎資料集。

## 抄 録

沿岸域で操業する中・小型氷蔵船12隻、沖合で操業する中型凍結船16隻による標本船調査及び試験船東奥丸(調査海域:35° 52' N~40° 42' N、132° 51' E~140° 25' E)、青鵬丸(調査海域:40° 22' N~43° 27' N、139° 00' E~141° 41' E)による漁場環境、スルメイカ分布状況等について調査を実施した。

### 1. 漁 場 環 境

日本海において北上期にあたる5月から6月初めにかけて対馬暖流の流勢は強く、流れは平行型で本県沖へのスルメイカの来遊は順調であった。6月中旬以降対馬暖流の流勢は弱勢に転じ、来遊したスルメイカを長期間本県沖漁場にとどめる働きをし、このことが日本海沿岸のスルメイカ好漁に結びついた。

### 2. 分 布

北上期では、沖合域での昇温の遅れが目立ったため、北上回遊が出来ず、沖合から沿岸寄り(東西方向)に高密度での漁場が形成された。

南下期では、沿岸では11月から南下傾向が顕著となった。

### 3. 魚 体

過去2ヶ年に比べて、秋生まれ群の占める割合が非常に高かった。

### 4. 水 揚 げ 量

(1) 沿岸域 主要4港への水揚げ量は、6,647トンで、昨年を上回った。

(2) 沖合域 凍結船の八戸港及び大畑港への水揚げ量は、25,712トンで前年を上回った。